

千葉県屈指の合格力を誇る学習塾

45年の歴史を経て、さらに発展

Zoom up Interview

この人に聞く

159



株式会社ジャスマック 代表取締役
菅田進学塾グループ 代表 清水 貫さん

中学・高校・大学受験において、千葉県屈指の合格力を誇る「菅田進学塾グループ」(株式会社ジャスマック)。「真の意味での英才教育」を掲げる同塾では、独自のメソッドと情報分析力を駆使。さまざまな研修をクリアした専任教務スタッフだけが授業を行い、生徒が未知の問題を解決する力を育み、学ぶ楽しさを伝えている。1978年に家族経営の個人塾からスタートし、45周年を迎える2023年には19校舎を展開するまでに成長したこれまでの歩みと、今後の展望を代表の清水貫氏に語ってもらった。

母がはじめた塾を受け継ぐ
15年間は家族経営の個人塾

—— 昨年創業45周年を迎えられました。今の想いは？

清水 45周年を迎えられたのは、まず一番に塾生の頑張りがあります。そのおかげでここまで続けてこられました。さらに保護者の皆様のご理解とご協力、地域の皆様からの陰ながらの応援のおかげでもあります。教材・教具会社、取引業者の方々のご支援も忘れてはいけません。皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございます。

そして、何より社員たちに恵まれたこと。社員たちが頑張ってくれたことが、現在の菅田進学塾をつくっていると思います。今後も社員への感謝の気持ちを忘れずに、彼らをもっと活躍できるように頑張ります。

—— 菅田進学塾をはじめたきっかけを教えてください。

清水 元々、菅田進学塾は私の母親がはじめた塾でした。今年93歳になりますが、まだ元気に過ごしています。

母は京都で生まれ育ち、思春期を戦時下で過ごしました。空襲警報が鳴り、女学校の地下に隠れる



真の意味での英才教育をめざし、本質的な学力を伸ばす小中高一貫指導の進学塾

という体験もしたそうです。真つ暗な地下で、社会の先生が世界史や地理の話をしてくれたのが印象に残っていて、その先生に憧れて教師を目指したと聞いています。

母は新制大学制度一期生として京都教育大学を卒業後、京都の日本最古の公立学校である公立中学で教師をしていました。私が3歳の時、父の転勤に伴い東京に引っ越しすることになり、退職。専業主婦をしていましたが、千葉県に転居して子育てが一段落した頃、今はもうない某塾の社会人講師になりました。

その後1978年に独立し、当時、塾のなかった千葉県の田舎の外房線菅田駅前に開塾したのが始まりです。

開塾当時、私は大学生でアルバイトとして手伝っていました。結局、他の企業に就職することな

Zoom up Interview

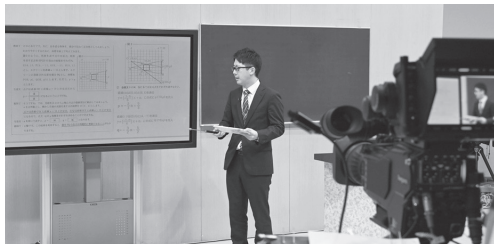
く、現在に至ります。
——最初はどんな塾だったのでしょうか。

清水 当時借りていたところは、10畳と12畳の間で、元は診療所だったようです。ギユウギユウに詰めても、それぞれ12人と18人が入るかどうかの広さで、そこに7年ほどいました。私が塾を継ぐことが確定してから、菅田駅近くの裏路地に土地を購入し、木造の小さな校舎を新築して移転しました。それが1986年のことです。法人化したのは1990年ですが、実質的な代表は私で、1993年までは手伝いに来てくれる父を含め家族3人で塾を運営していました。

状況が変わったのは1992年に鎌取に2校舎目を出してからです。家族3人とはいえ、父と母はフルタイム勤務ではありませんでした。1年やってみて責任体制に限界を感じ、1993年に正社員を1名採用することにしました。



新入社員合宿。人が育ち、飛躍するための環境を提供するため今年も開校が続く



チバテレビ「千葉県公立高校入試回答・解説」教科別専任スタッフが、入試直後の生放送で問題を詳しく分析

00年、当時3名しか社員がいなかったのに、今後のことを考えて一気に3名を採用。その頃の社員たちが塾の中核をつくり、現在に至るまで支えてくれています。その最初の社員は定年まで勤め、今も非常勤で授業をもっています。ただ土気開校のときの3名のうち1名が、昨年から病気療養の末、今年初めに亡くなり大変無念です。

塾ブランドを3つに分け、組織的な運営にチェンジ

——2004年には、「読売ウイークリー」の「合格力ランキング」で全国1位になりました。

清水 このランキングは首都圏と関西圏の主要塾を対象に、難関高

校への合格実績から各塾のスコアを算出し、それを中3塾生数で割った数でランクづけをしています。塾の規模に左右されず、塾生一人ひとりの合格力を評価するもので、ランキングが特集されていた2004年から2006年まで、菅田進学塾は「公立首都圏合格力」第1位(全国1位)でした。ちょうどその頃、社員数が10名を超えました。社員が増えるとともに、指導力は下がりますが、一生懸命成長してくれるので、指導力がまた上がります。すると評判を聞きつけて遠方からも生徒が来るようになり、また社員を増やすことになりました。当時はこうしたサイクルを繰り返していました。しかし、同時に若い社員の活躍の場をどうつくるか、定年まで安心して働いてもらうためには何が必要かという問題に直面しました。そこで2006年に、ちはら台の校舎を開校する際、塾のブランド名を3つに分け、事業部を分割することにしました。

——それまでは「菅田進学塾」という塾名だけだったのですか。

清水 そうです。3校舎目までは菅田進学塾何々教室という名称でした。2006年に、難関中学受験専門を「sirius(シリウス)」と名付けました。また、それまでの菅田進学塾は最難関高校受験とし、カリキュラムをスリム

化した難関高校受験の「菅田進学塾ism(イズム)」を新たに作りました。

シリウスは高校受験事業部とは別組織で、中学受験事業部の本部長がいて、その下に担当者配置しています。鎌取には同じ建物の中に菅田進学塾とシリウスの校舎長がそれぞれいて、別々のチームがある形です。外から見るとそんなに変わったようには見えないのですが、人の動かし方やオペレーションを変えたので、私たちの中では大きな転換になりました。

——組織として大きくなるきっかけになったのですか。

清水 人が増えてきて試行錯誤をしなければいけなくなった時点で、「合格力ナンバー1」と評価を受けることができたのは良いタイミングだったと思います。私も塾業界での全国デビューのような形になり、業界の皆さんが集まる場で「読売ウイークリー」で1位になった塾です」と言うと、「あの塾か」とさまざまの方が話を聞かせてくれるようになりました。

他塾にもよく見学に行き、勉強させていただきました。その中で「良い」と思った指導法は、「なぜそうしているか」の本質を考え、自塾にはどう取り入れたらいいかを熟考してから導入しました。他にも異業種の企業を訪れ、視野を

Zoom up Interview

東進衛星予備校に加盟 社員に活躍の場を提供

広げていきました。

——次の転機は2008年の東進衛星予備校への加盟でしょうか？

清水 はい。2006年に組織改革をした時には、すでに高校部開設の構想はあって、東進衛星予備校を導入し成功している塾に視察に行くなど、約3年間の研究期間を経てからスタートしました。

東進衛星予備校は、「Premium（プレミアム）高校部」という大学受験事業部で展開しています。その中で、中高一貫校生専門塾の「東進中学NET」も運営しています。

現在、東進衛星予備校は8校舎。その他シリウスが2校舎、誉田進学塾が2校舎、イズムが7校舎で、全部で19校舎になります。

——東進衛星予備校だけでも、2022年に八千代緑が丘校、千葉中央駅校をオープンされています。少子化の中、開校できるのはなぜでしょうか。

清水 開校の一番の理由は、社員たちの活躍する場をつくりたいからです。社員が順調に成長していくと、それに見合った役割が必要になり、さらに成長するためのポジションを用意しなければいけません。

私の感覚が正しいかはわかりま

せんが、人が育ち、飛躍するための環境を提供したいと考えての開校で、最初に開校ありきで、後から人を採用する方法は弊社ではとつていません。

IT企業のヒューレット・パッカードの創始者の一人、デビッド・パッカード氏は「会社の成長速度は、社員の成長速度を超えることはできない」という意味の言葉を残しています。弊社でも人を採用し、成長を促し、その成果として会社が成長すると考えています。2024年7月に新しく東進衛星予備校を2校増やす挑戦をします。

難関校への合格力の高さを秘匿は自ら考える力の育成

——誉田進学塾グループは2024年春、東大・京大などの難関大学に多数合格。高校受験でも千葉高・千葉東高・渋谷教育学園幕張高など、中学受験でも千葉中・市川中などに多くの合格者を出しています。この合格力の秘匿は何でしょうか。

清水 私たちは真の意味での英才教育を目指しています。学問の世界で将来活躍する人、最先端の研究に携わる人、勉強で培ったものを活かし、社会で道を切り拓いていく人を育てたいと考えています。

ですので、塾のホームページな

どでは「点数を上げて合格させる」という表記は一切ありません。多少厳しく遠回りになっても、勉強の仕方や、自分で考え創意工夫して問題を解いていく力に身につけさせる指導をしています。合格はその結果であると考えています。

このような指導方針ですので、入塾希望者にはテストを行っていただきます。お互い切磋琢磨して一緒に伸びていける生徒はいいのですが、今の塾生のペースについてこられない生徒をそこまで引き上げる余力が私たちにないのが正直なところです。

組織として強ければ、そうした生徒を引き受けられるかもしれません。現在が、現在は、今在



籍している生徒を伸ばすことに力を注いでいきたいです。

誉田進学塾が進出していないエリアにも、私たちの考えに共感し賛同する生徒・保護者はいらっしゃいます。潜在的なニーズがあると判断できれば、そこに進出することは使命と考えています。

——最後に塾業界のこれからについてメッセージをください。

清水 民間教育の素晴らしところは、公教育と違い、いろいろな取り組み方ができる自由さがあることだと思っています。顧客はそれぞれの価値観で良いと思ったものを選ぶことができ、健全な形の自由競争によって淘汰され、良いものがそれぞれ自然に残ります。私たちが自由競争の中で努力を続けることで、民間教育業界全体が発展すると考えています。

大袈裟かもしれませんが、塾の先生の指導が生徒の一生を変えてしまうこともあります。そんな一瞬一瞬に私たちは向き合っています。そういう意味ではとてもやりがいのある仕事です。若い人がやりがいを感じて飛び込んできてくれるような業界でありたいと思います。業界の健全な発展に向けて、皆様と競い合いながら、これからも進みます。

——本日はありがとうございました。